

第9回 企画展「草創期の大東漢学」公開終了後の雑感



企画展が始まった4月に我がゼミ生に展示を見に行くように指示したのであるが、終わってみて聞いたら行かなかった学生もいた。大東文化大学の前身である大東文化学院は創立当時、修身漢文と国語漢文の2学科に分かれており、修身漢文が現在の中国学科で、国語漢文が日本文学科である。つまり中国学科は創立からの学科であり、13年後には100周年を迎えるのである。その伝統ある学科の学生が所属する学科の歴史に興味を持たないのは嘆かわしいことであるが、当今の学生に伝統と言ってもあまり興味を示さないのは、大学（学園）のイメージ作りや歴史や伝統に対する姿勢にも問題があるのかもしれない。

‘漢学’というと封建的な古めかしいイメージを抱き、そのような古くさい学問は学ぶ必要が無いと思っている人や、また戦前戦中の道徳教育が漢学と表裏一体の儒教、その説く身分社会による抑圧された教えと思っている人もいるようであるが、江戸時代の武士が漢学を学んで立身出世するのは違い、あくまでも科学的学問の対象としての‘漢学’であって、日本人の思考様式に深く関わっている漢学を知ることは、日本人のアイデンティティーの確立にも大きく関わっている。

企画展の展示が掛軸や書籍等の文物が中心で、深く掘下げた内容になっていないことは否めない。今後の展示のあり方や歴史資料館の運営について、職員や学生の積極的な意見を望んで已まない。

(大東文化歴史資料館運営委員・中国学科准教授 吉田篤志)

* 所蔵資料紹介 *

大東文化学院 銅印

大東文化学園大金庫内に保管されていた大東文化学院時代の「銅印」。今年度、大東文化歴史資料館へ移管されました。

この銅印、実は学院時代から大東文化学園がずっと保管していたものではなく、たまたま見つけた本学職員が学園へ寄贈したものだったそうです。戦火により校舎が全焼したことで、おそらく戦中戦後の混乱の中転々としてきた印は、近年になって再び大東文化へ戻ってくることができました。



< 資料寄贈ご協力をお願い >

大東文化歴史資料館(大東アーカイブス)では、学園に関わる資料を広く収集しています。教科書・講義ノートのほか、写真・映像、機関紙・新聞など、ご提供いただけるものや情報がありましたら、お気軽にご連絡ください。ご協力を宜しくお願いいたします。